

分類	一般名	商品名	採用 (2024年12月時点)	休薬について	備考
卵胞ホルモン製剤	エストラジオール	エストラーナテープ0.09mg、0.18mg 0.36mg、0.72mg	外 (0.09mg、0.18mg) 内外 (0.72mg)	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		ジュリナ錠0.5mg		術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照 ※ル・エストロジェル0.06%は産婦人科限定
		エストラジオール錠0.5mg「F」			
		ディピゲル1mg	内外		
		ル・エストロジェル0.06%	内外		
	エストラジオール吉草酸エステル	プロギノン・デポー筋注10mg	内	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【慎重投与】を参照 添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		ベラニンデポー筋注5mg、10mg			
	エストリオール	エストリール錠0.5mg、1mg、100v	内外 (1mg)	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照 添付文書の【慎重投与】を参照
		ホーリン錠1mg			
		エストリオール錠1mg「F」			
	エストリオール（腔錠）	エストリール腔錠0.5mg	内外	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②	
		ホーリンV腔用錠1mg		休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与 ^②	
黄体ホルモン製剤	エストラムステンリン酸エステルナトリウム水和物	エストラサイトカプセル156.7mg	内外	術前は血液凝固能が亢進するため患者のリスクに応じて休薬、術後は血液凝固能を検査して再開 ^②	抗悪性腫瘍剤
	エチニルエストラジオール	プロセキソール錠0.5mg	内外	患者の背景による血栓症リスクや原疾患の状態を考慮し、手術前4週間・術後2週間の休薬 ^②	抗悪性腫瘍剤
	結合型エストロゲン	ブレマリン錠0.625mg	内外	術前4週間又は長期臥床状態の患者（治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合は投与可） ^①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
	クロルマジノン酢酸エステル ジドロゲステロン	ルトラール錠2mg	内外	休薬の必要性なし ^②	
		デュファストン錠5mg	内外	休薬の必要性なし ^②	
		プロゲストンデポー筋注125mg プロゲデポー筋注125mg		休薬の必要性なし ^② 休薬の必要性なし、患者の状態を鑑みて判断 ^②	
	プロゲステロン	ウトロゲスタン腔用カプセル200mg	内外	休薬の必要性なし ^②	産婦人科限定採用
		エフメノカプセル100mg	内外	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照、産婦人科限定採用
		プロゲホルモン筋注用10mg、25mg プロゲステロン筋注25mg「F」、50mg「F」		血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^② 休薬の必要性なし ^②	
		ルティナス腔錠100mg	内外	休薬の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②	
		ルテウム腔用坐剤400mg ワンクリノン腔用ゲル90mg		休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与 ^② 休薬の必要性なし ^②	
	メドロキシプロゲステロン酢酸エステル	ヒスロン錠H200 メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠200mg「F」	内外	術後1週間、術前は4週間休薬し、血液検査で血液凝固能を検査する ^②	抗悪性腫瘍剤、【禁忌】手術後1週間以内の患者（休薬については、添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照）
		プロベラ錠2.5mg	内外	休薬の必要性なし ^②	
		ヒスロン錠5 メドロキシプロゲステロン酢酸エステル錠2.5mg、5mg		休薬の必要性はないが、術後では1週間を目安に再開 ^② 休薬の必要性なし ^②	
	ノルエチステロン	ノアルテン錠5mg		休薬の必要性なし ^②	
緊急避妊薬	レボノルゲストレル	ノルレボ錠1.5mg		休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与 ^②	自費
		レボノルゲストレル錠1.5mg「F」	内外		自費
子宮内 黄体ホルモン 放出システム		ミレーナ52mg	内	休薬の必要性なし ^②	正規採用（産婦人科のみ処方可能）。※避妊目的は自費 子宮内に局所的に作用し、血液中へ移行する量は限られるため、周術期における血栓症リスクに対して休薬の必要性なし すでに装着した状態で骨盤内の手術をする場合は注意

参考資料：①添付文書・IF、②メーカー回答、今日の治療薬

分類	一般名	商品名	採用 (2024年12月時点)	休薬について	備考
卵巣ホルモン 黄体ホルモン 配合剤	エストラジオール 1mg レボノルゲストレル 0.04mg	ウェールナラ配合錠		術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
	エチニルエストラジオール 0.05mg ノルゲストレル 0.5mg	ブラノパール配合錠	内外	血栓症のリスクに応じて休薬 ^②	
	エストラジオール 0.62mg 酢酸ノルエチステロン 2.70mg	メノエイドコンビパッチ	外	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【慎重投与】を参照
	エストラジオール安息香酸エステル 10mg ヒドロキシprogテストロン カブロン酸エステル 125mg	ルテスデポー注	内	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②	
	エチニルエストラジオール LD 0.035mg ULD 0.02mg ノルエチステロン 1mg	ルナベル配合錠LD、ULD フリウェル配合錠LD、ULD	外（LD）、内外（ULD）	手術前4週間から術後2週間まで休薬、 産後4週間まで及び長期間安静状態についても休薬 ^①	マーベロン28：産婦人科のみ処方可能 アンジュ、トリキュラー、ラベルフィーユ、シンフェーズ、マーベロン、ファボワールは自費 添付文書： 【禁忌】手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内及び長期間安静状態の患者（血液凝固能が亢進され、心血管系の副作用の危険性が高くなることがある。）
	エチニルエストラジオール0.03mg、0.04mg レボノルゲストレル0.05mg、0.075mg、0.125mg	アンジュ21錠、28錠 トリキュラー錠21、錠28 ラベルフィーユ21錠、28錠			
	エチニルエストラジオール 0.02mg レボノルゲストレル 0.09mg	ジェミーナ配合錠	内外（錠内は患者観察）		
	エチニルエストラジオール ノルエチステロン	シンフェーズT28錠	外		
	エチニルエストラジオール 0.03mg デソゲストレル 0.15mg	マーベロン21、28 ファボワール錠21、28	外（28）		
	エチニルエストラジオール 0.02mg ドロスピレノン 3mg	ヤーズ配合錠、ヤーズフレックス配合錠 ドロエチ配合錠「あすか」	外（フレックス）		
	エストロロール 15mg ドロスピレノン 3mg	アリッサ配合錠			
	性腺刺激ホルモ ン	ヒト下垂体性性腺刺激ホルモン	HMG注射用75単位、150単位		
HMG注射用75IU、150IU「フェリング」			内外（150IU）		
フォリルモンP注75、150			内（150）		
uFSH注射用75単位、150単位「あすか」					
ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（注射用HCG）		ゴナトロピン注用5000単位 筋注用1000、3000単位		休薬の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②	休薬する場合は、手術予定日から1週間前を目安に行う（HCGモチダ：メーカー回答）
		HCGモチダ筋注用3千、注射用5千、1万単位 注射用HCG 3,000単位「F」、5,000単位「F」、10,000単位「F」	内外（5千単位）		
ホリトロピン アルファ		ゴナールエフ皮下注ペン150、300、450、900 ゴナールエフ皮下注用75、150	内外（300、900）	休薬の必要性なし ^②	
フォリトロピン ベータ		フォリステム注300IU、600IU、900IUCカートリッジ		休薬の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②	
ホリトロピン デルタ	レコベル皮下注ペン12μg、36μg、72μg	内外（36、72）	休薬の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②		
コリオゴナドトロピンアルファ	オビドレル皮下注シリンジ250μg	内外	休薬の必要性なし ^②		
Gn-RH アゴニスト製剤	ゴセレリン酢酸塩	ゾラデックス1.8mgデポ		休薬の必要性なし ^②	凝血系への影響等については報告されておらず、手術で問題があったという報告もなし（2021年1月メーカー確認）
		ゾラデックス3.6mgデポ、LA10.8mgデポ	内	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与 ^②	
	酢酸ナファレリン	ナサニール点鼻液0.2%	内外	休薬の必要性なし ^②	
		ナファレリン点鼻液0.2%「F」			
	ブセレリン酢酸塩	スプレキュア点鼻液0.15%	内外	休薬の必要性なし ^②	基礎試験では血液凝固・線溶系への影響はほとんどなし
		ブセレリン点鼻液0.15%			
	リュープロレリン酢酸塩	リューブリン1.88mg、3.75mg	内（1.88mg）	休薬の必要性なし ^②	注射用1.88mg：小児科のみ処方可能
		リューブリンSR11.25mg、PRO22.5mg	内		PRO22.5mg：泌尿器科・乳腺センターのみ処方可能
リュープロレリン酢酸塩注射用キット1.88mg、3.75mg		内			
Gn-RH アンタゴニスト製剤	ガニレリクス酢酸塩	ガニレスト皮下注0.25mgシリンジ	内外	該当資料無し	
	セトロレリクス酢酸塩	セトロタイド注射用0.25mg		休薬の必要性なし ^②	
	レルゴリクス	レルミナ錠40mg	内外	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与 ^②	
排卵誘発薬	クロミフェンクエン酸塩	クロミッド錠50mg	内外	休薬の必要性なし ^②	
	シクロフェニル	セキソビット錠100mg		休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与 ^②	
子宮内膜などの治療薬	ジェノゲスト	ディナゲスト錠0.5mg、1mg、OD1mg	内外（0.5mg）	休薬の必要性なし ^②	血液凝固は亢進しないとの文献報告あり
		ジェノゲスト錠0.5mg、1mg、OD1mg	内外（1mg）		
	ダナゾール	ボンゾール錠100mg、200mg	内外（100mg）	休薬の必要性なし ^②	
女性 男性ホルモン 配合剤	テストステロンエンアント酸エステル 90.2mg エストラジオール吉草酸エステル 4mg	ダイホルモン・デポー注 ブリモジアン・デポー筋注		術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照 添付文書の【慎重投与】を参照